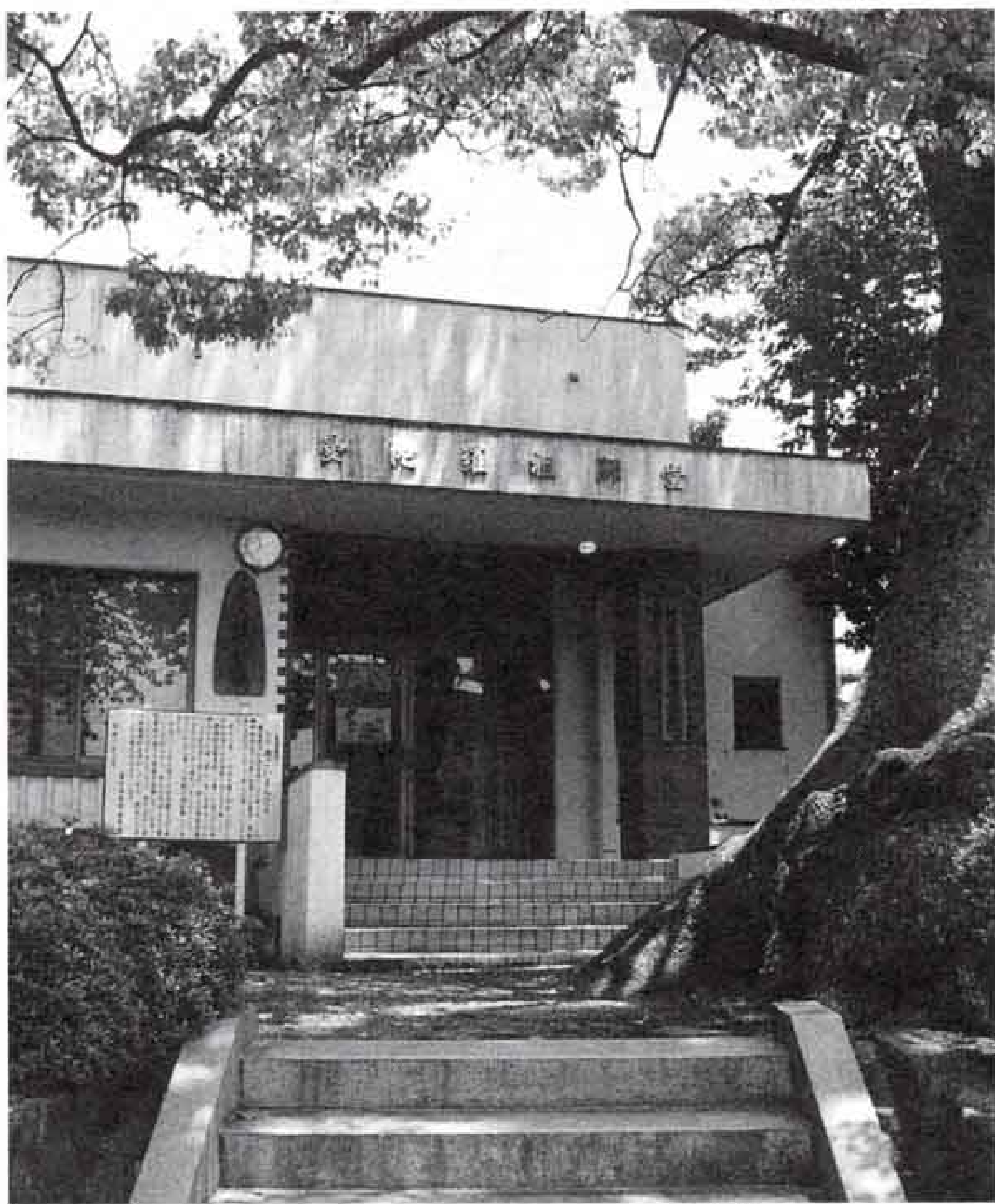


富士の民話 あれこれ

神戸の

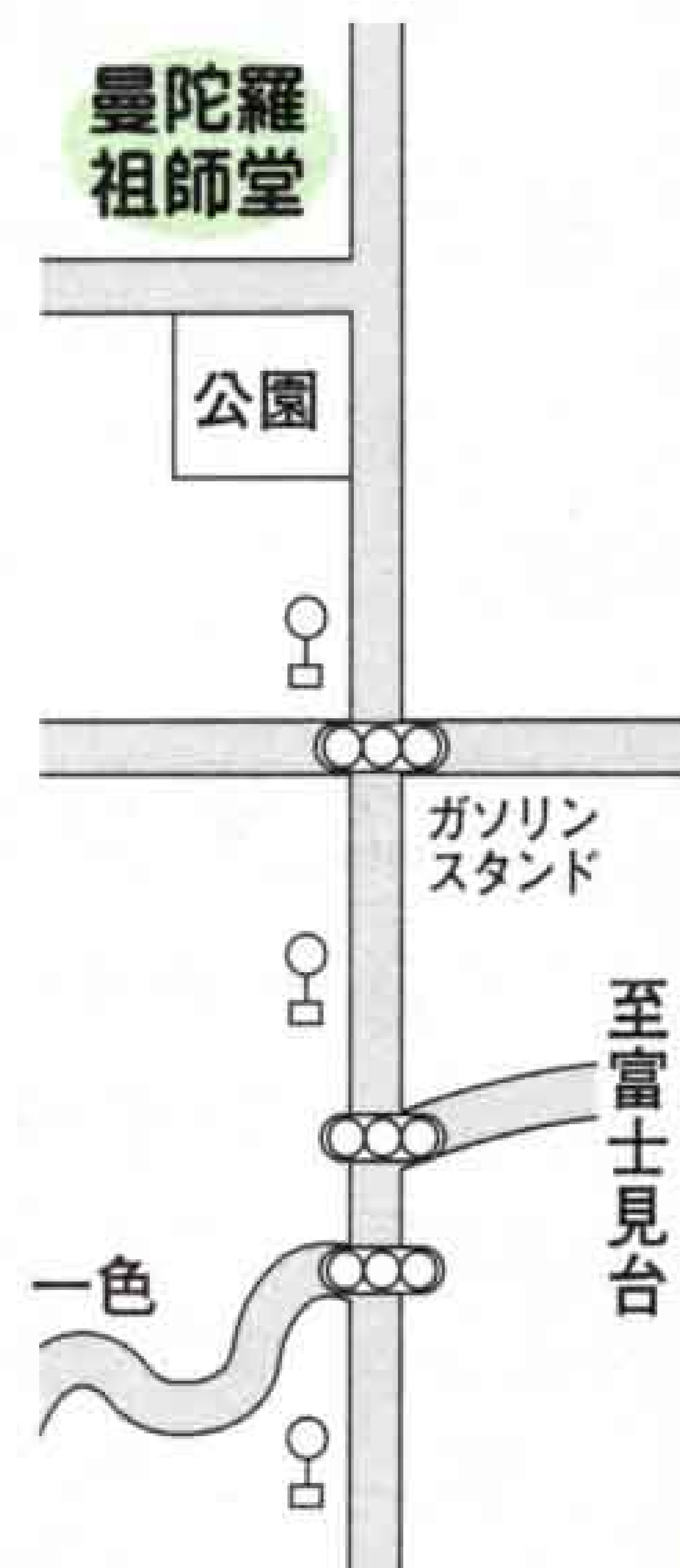
雨ごいまんだら



▲「おまんだらさん」と呼ばれる曼陀羅祖師堂

神戸二丁目にある曼陀羅祖師堂は「おまんだらさん」と呼ばれ、地域の人々に親しまれています。このお堂は日蓮宗の開祖である日蓮上人を祭るお堂です。
今回は、このお堂に祭られていた「まんだら」にまつわるお話です。

鎌倉時代のことです。ある年の夏、神戸地区では日照りが続き、作物は枯れ、村人は大変困っていました。そんなある日、一人のお坊さんが村を通りかかりました。村人の困った様子を見て、お坊さんは「南無妙法蓮華經」と書き、「このまんだらをかけてお祈りなされ」と言い残して村を去っていきました。
村人は半信半疑でしたが、お坊さんが書いてくれた「まんだら」を村のクスのノキにかけてみんなで題目を唱え、雨ごいをしました。すると空はにわか



に曇り大粒の雨が降ってきました。たちまち畑は潤い、作物もよみがえりました。村人は大変ありがたき思い、お堂をつくってまんだらを祭ることにしました。さらに、この日が旧暦の六月十二日だったので毎年その日にお祭りを行うことにしました。
その後、そのお坊さんが日蓮上人だったことがわかり、村人はまんだらをもっと大切に祭ろうと相談し、三ツ倉にある日蓮宗の法蔵寺に預かってもらうことにしました。
現在は、毎年七月の第三土曜日にお祭りを行っています。お祭りのときは今でも法蔵寺にまんだらを迎えに行き、お堂に祭り、ご開帳が終わるとまた法蔵寺へ送り届けています。

まんだらを法蔵寺に預けたのは、当時の地区の家はすべて日蓮宗ではないお寺の檀家だったからと聞いています。お祭りのとき、今ではまんだらを車で法蔵寺へ送迎していますが、昔は歩いて迎えに行き、三ツ倉からも住職さんを含む大勢の人が歩いて来てくれました。その行列の中で、まんだらを台に乗せて二人で担いで運びました。子供のころ、ご利益があるからといつも母に言われてそのまんだらを乗せた台の下をくぐりました。
まんだらには親しみがあって、私くらいの年の人はこの地区のことを「まんだら」と呼びます。今私が入っているゲートボールチームの名前も「まんだらチーム」と言うんですよ（笑）。



神戸で生まれ育った
鈴木 政子さん
(神戸二丁目)

こちら編集室

ペットボトルの分別回収が始まることで、ペットボトル入りの飲料水を大量消費する我が家のごみの量もさぞや減ることだろう。

そのペットボトルも段ボール箱などととも、小1の息子の手にかかる、鉛筆立てや車などの作品に変身。これも立派なりサイク

ルとも言えないこともないが、狭い我が家では、たまっていく子供の作品にお手上げ状態。結局は、子供に内緒で少しずつ処分することに。後で「どこへやった」と聞かれれば「どこへ行ったかな」と逃げるしかない。皆さんは子供の作品をどうしていますか。

人口 237,762人 (前月比+325)
男 118,417人 (+219)
女 119,345人 (+106)
世帯 78,542世帯 (+357) 5月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

